



ロールプレイで学ぶこと

人材育成に関わるようになり、ロールプレイで学ぶことの大切さを感じています。というのも講義形式で、関わり方について“知識”を伝えたとしても、実践できるとは限らないからです。

例えるならば、どれほど上手に泳ぎ方を講義で教え、繰り返し本を読んでもらい、すべての言葉を覚えたとしても、泳ぐことはできません。どれほど繰り返し、音楽を聴いたとしても、初心者の方がピアノを聴いたとおりに演奏することはできません。泳ぐことができるためには、実際に水につかり、顔を水につけ、足を底から話して水の中で浮かんでみたり、手足を動かしたりしなければ泳ぐことはできません。演奏するためには、実際に鍵盤に触れて音を出してみ、その繰り返しの練習が必要になります。

大きな苦しみを抱えた人と1対1で関わる対人援助は、現場で最も大切な関わり方です。話をていねいに聴きましょうと簡単に言うことはできます。しかし、実際に大きな苦しみを抱えた人と相対して話を聴くことは、容易ではありません。どうしても励ましたい思いになったり、説明をしたり、反復した後の沈黙が苦しくなったりします。ていねいに反復して沈黙を行えたとしても、聴く私たちも同様に患者さんの苦しみを味わい、苦しくなっています。

ロールプレイで一度経験すると、関わり方そのものを学ぶことができます。そして、この経験が大きな力となります。2日間で行うエンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座のハイライトは、2日目の午後のロールプレイにあります。3人1組となり、まずは反復と沈黙のみのロールプレイ2分とふりかえりを3回行います。さらには、問いかけを含むロールプレイ6分とふりかえりを同様に3回行います。ふだん、意識していない“人の話を聴く”ことが、いかに難しく、そしていかに頭を使うのかを実感します。何気ない沈黙の“間”であったり、何気ない“問いかけ”1つで、相手の表情が変わっていくことを体感していきます。

患者さん役をやってみてわかることがあります。こんな思いで現場では苦しんでいるのだと思うと、今までとは違って現場に関わる事ができるでしょう。聴き役で苦しいと感じていた“沈黙”が、患者さん役をやると、かえってその“沈黙”の時間が、心地よく、自分の考えをまとめる大切な時間であることを学びます。反復と沈黙だけでは、改善しにくい重たい場の雰囲気が、たった1つの問いかけ（闘病中に支えになったものは？）だけで、表情が変わっていくことを体感することができます。人はただ苦しむわけではありません。苦しむ前には気づかなかった大切な自分の支えに気づく時、気持ちが穏やかになっていきます。

長く繰り返すロールプレイの疲労は、相当なものかもしれませんが、しかし、終了した後の参加者の充実した顔の表情と大きな拍手は、2日間の研修の魅力です。よろしければ是非、ご参加下さい。

小澤竹俊

第15回神奈川県緩和医療研究会開催にあたって

超高齢多死時代にむけて、どのような課題があるのか、何を今から準備していく必要があるのか、神奈川で活動されている第1線のエキスパートより、問題提起をしていただき、参加者の皆様と熱く討論をしたいと思えます。

日時：2016年3月26日午後0時30分受付、午後5時終了予定
場所：関内新井ホール

講演：多職種連携で行うエンドオブライフ・ケア ～2025年問題解決に向けて～；小澤竹俊（めぐみ在宅クリニック 院長）

シンポジウム：多職種連携で2025年問題に備える

小野沢 滋（北里大学病院 トータルサポートセンター センター長）、平野 和恵（南区医師会訪問看護ステーション 緩和ケア認定看護師）、串田 一樹（昭和薬科大学地域連携薬局イノベーション講座特任教授）、MSW：堀越 由紀子（東海大学 健康科学部社会福祉学科教授）、小山 輝幸（特別養護老人ホーム グリーンヒル 泉・横浜 介護支援専門員）、佐藤 陽（朝日新聞横浜総局 記者）
定員：300人、参加費：1000円

フォローアップ研修開催

3月5日土曜日にめぐみ在宅クリニック研修室でJSP/ELC修了生を対象にフォローアップ研修を開催しました。全国から60名弱が集まり、困難事例を元に多職種連携の事例検討、そして1対1のロールプレイを行いました。エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座では6分で行いますが、フォローアップ研修では9分の長い時間をかけて行いました。上級編としての困難事例でのロールプレイではありましたが、全国から志の高い（キャラの濃い）仲間が集まり、学ぶ時間となりました。それぞれの地域で、1人でも誠実に看取りに関わる人材が増えていくことを応援していきたいと思えます。

診療実績

	2006-2014年	2015年 1月~10月	2015年 11月	2015年 12月	2015年 計	2016 年1月	2016 年2月	総計
訪問回数	32,656	7,072	783	827	8,682	772	770	42,880
自宅永眠	1,286	194	20	28	242	22	24	1,574
施設永眠	129	26	3	0	29	4	3	165
在宅(自宅+施設)	1,415	220	23	28	271	26	27	1,739
病院永眠	330	54	9	4	67	8	6	411